

## 交渉学ワークショップの開催

日時：2014年12月12・13日 場所：熊本学園大学

2014年12月12日・13日の両日に亘り、熊本学園大学にて関西大学教育推進部の三浦真琴教授・山本敏幸教授・田上正範研究員ならびにLA(ラーニング・アシスタント)の学生が「熊本学園大学リーガルエコノミクス学科秋季講座「交渉学～社会人と学生の交渉型ワークショップ」に参加しました。

このワークショップは、社会人と共に交渉学ならびにクリティカルシンキングをいくつかのケースに基づいて模擬的に体験することによって「考動力」を形成することを目的とした取り組みです。参加した両大学の学生と社会人(総計約50名)は複数のグループに分かれ、提示された課題に関するダイアログやディスカッションを経た上で意思決定とそのプレゼンテーションをそれぞれのグループにて実施しました。関西大学のLAは、プログラムの進

行ならびにファシリテーションを担当し、あるいはコンテキストの解釈や可視化のモデル・プレゼンテーションを提示し、交渉学ワークショップにおいて学生のリーダーとして発揮すべきスキルを学び、あるいはそれを提供するミッションを遂行しました。

このワークショップに参加した社会人からは、「学生さんが真剣に取り組む姿に好感を持ちました」「こんなに意識の高い大学生がいるのに驚きました」「授業の内容を可視化するスキルを身につけたいと感じました」などの好評価(高評価)を頂きました。

交渉学ワークショップは既に関西大学を会場として過去に三度開催していますが、今回はフランチを離れての初めての経験となりました。アウェイであっても、LAの学生たちは、その持てる力を存分に発揮することができるとい、嬉しく、意味

のある発見と確認がなされた研修でした。

なお、このワークショップは毎日新聞に掲載されました(以下参照)。

(教育推進部 三浦真琴)



寸劇で卒業旅行について相談する学生ら＝関西大提供

### 毎日新聞大学支援センター監修

## 文科省補助制度、教育再生加速プログラム 主体的学び引き出す

2015年2月16日

大学の教育力を伸ばすため、文部科学省の肝煎りで今年度から始まった補助制度「大学教育再生加速プログラム(AP)」。社会人に必要な能力を育成する主体的な学習方法「アクティブ・ラーニング」や学習効果の「見える化」に採択件数の8割超が集まっており、大学改革の一つの方向性を示している。大学の講義を変える新たな学びのスタイルとはどのようなものか。

### ◇グループで解決策探る—関西大

「親に納得してもらって、みんなで行くにはどうすればいいか」。昨年12月13日、熊本市にある熊本学園大学の教室で、同大と関西大(大阪府吹田市)の学生が壇上で寸劇を披露した。

大学4年生6人が卒業旅行を企画する内容で、行きたい場所や予算、期間、親の反対といった状況を整理して、解決策を探る。関西大4年、山本綾香さん(22)が、父親役の三浦真琴・同大教授(教育開発支援センター)から日程を

理由に旅行を反対され「お父さんの分からず屋」と反発する場面では、教室がどっと沸いた。

この日は、学生と社会人合わせて40人以上が混成チームを作り、4時間半かけていくつかのテーマについて解決策を話し合った。寸劇で取り上げた卒業旅行の計画をめぐる話し合いもテーマの一つ。山本さんらLA(学習支援者)を務める関西大生4人と熊本学園大の学生4人が中心となって企画、進行も担当した。

関西大は、課題をグループで解決するPBL(課題解決型学習)や学生参画型の授業を取り入れ、生涯を通じて創造的に活躍できる人材育成を掲げてAPに採択された。三浦教授が担当で、主体となって活動するのは、LAを務める学生たちだ。

山本さんのように、国際学会を含め他大学での「他流試合」でLAを務める学生は10人に上る。関西大は21日、千里山キャンパスでフォーラム「21世紀を生き抜く考動力を育成するために」を開催。APでの成果などを報告する予定だ。問い合

わせは同大教育開発支援センター(06・6368・0230)。



## From CTL事務局

平成24年度に文部科学省大学間連携共同教育推進事業「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」が採択された。この取り組みは、関西大学と津田塾大学で展開するライティングセンターの支援体制整備を中心に、多彩な連携事業を展開している。

これまでの期間、大学院生のTAによる個別相談や、ライティング能力を総合的に向上させる企画を開催してきた。

昼休みの時間帯に開講しているレポートの書き方を解説する「ワンポイント講座」では、「なぜレポートを書かなくてはならないのか?」といったテ

マから始まり、書くうえでの留意点やここでしか聞けない文章力向上のテクニックなど、細かなアドバイスを受けることができる。

参加者は採択初年度の約6倍(出張ワンポイント講座を含む)になり、関心を持った学生が増えたことは、取り組み担当者として非常に喜ばしいことである。それと同時に、本講座の開講を知らない学生が未だ多数存在するという現状を知り、新たな課題も見えてきた。

「関心」という点では、他大学からの視察やメディア取材が増えた点が挙げられる。視察者からは、「今の学生は、整備・充実した施設を自由に活用できて羨ましい」という声が聞こえてくる。

限られた学生生活のなか、卒業してから「利用(参加)すれば良かった」と後悔しないよう、施設を十分に活用し、新たな企画にはぜひとも自発的な姿勢で参加してほしいと願う。

今年の4月からは、千里山キャンパス第1学舎1号館5階、高槻キャンパスC棟1階に加え、総合図書館内でも個別相談を受けられるようになる。

このコラムを読んだ学生の中で、一人でも多くの方が、自らの意思で「考動」し、ライティング関連の企画に参加してくれたらと希望を膨らませている。取り組みを成功させるためには、我々運営側スタッフの力だけではなく、学生諸君の積極的な姿勢が鍵を握っている。(将)



KANSAI UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching and Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-1513 FAX: 06-6368-1514

http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html

発行日/2015年3月25日 編集・発行/関西大学 教育開発支援センター